



## 杉浦農園 沿革

杉浦農園（奈良県御所市） 代表 杉浦英二

1969年 大阪府高槻市に生まれる。家業の米穀販売に従事する。

1995年 近畿大学農学部にて作物について学ぶ（サツマイモ）。

卒業後、建設土木コンサルタントに就職。中国の砂漠緑化プロジェクトに参加。

2002年 退職後、一年間農業大学校に通い、2003年奈良県御所市で水田一枚を借り杉浦農園を開業。

2017年 地元油長酒造の協力により、水源近辺の棚田において酒米（秋津穂）栽培イベントを開始。

その周辺の棚田を「秋津穂の里」と命名。

2023年 水源地の森ツアーに参加。季刊誌「ぽたり」に村民との対談記事。

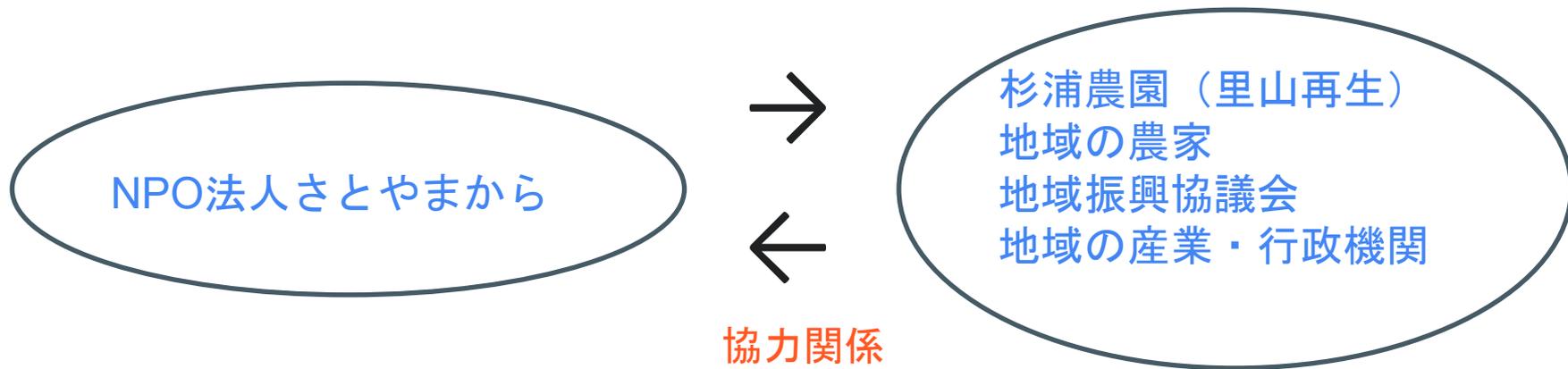
2024年 杉浦が設立発起人となり、「特定非営利活動法人さとやまから」を設立する。

2026年 7月と9月に、森と水の源流館による秋津穂の里の生物調査が行われる。

\* 現在の栽培面積は3ha。標高400mの棚田で、酒米、野菜、蕎麦を中心に栽培。

国内外から毎年延べ500人の援農者とともに、里山環境を活かした循環型有機農業を実践。

# NPO法人さとやまからの概要



協力関係

- (1) 社会教育の推進を図る事業
- (2) 観光の振興を図る事業
- (3) 農村漁村又は中山間地域の振興を図る事業
- (4) 環境の保全を図る事業
- (5) 科学技術の振興を図る事業

# 杉浦農園の取り組み（1）

## 耕作放棄地の再生



# 杉浦農園の取り組み（2）

## 地元産業との協業



# 杉浦農園の取り組み（3）

## 蕎麦産地作り



# 杉浦農園の取り組み（４）

## 国内外の関係人口の受け入れ



秋津穂の里  
い

里山再生のモデルを作りたい



# 里山の要素（1） 水源



## 里山の要素（2）

## 生物の多様性



## 里山の要素（3） コミュニティと景観



## 里山の要素（４）

## 里山歩き（開放性）



# 森と水の源流館による生物調査（2026年7月・9月）

## 里山の源流域の生物たち



# 溜池の生物



# 森林 · 源流域



# その他昆虫



夏季調査  
確認種数  
7月25日

トンボ目			
アジアイトトンボ	ホソミオツネントンボ	ベニイトトンボ	モノサシトンボ
ギンヤンマ	オニヤンマ	オジロサナエ	ウスバキトンボ
オオシオカラトンボ	コシアキトンボ	シオカラトンボ	チョウトンボ
ショウジョウトンボ			
			トンボ目確認種数 13種
バッタ目			
ニシキリギリス	ヤブキリ	ヒメギス	エンマコオロギ
ハラヒシバッタ	トゲヒシバッタ	ショウリョウバッタ	オンブバッタ
コバネイチゴ	ツマグロバッタ		
			バッタ目確認種数 10種
カマキリ目			
ハラビロカマキリ	オオカマキリ		
			カマキリ目確認種数 2種
カメムシ目			
ハリカメムシ	ホオズキカメムシ	ホシハラビロヘリカメムシ	クモヘリカメムシ
ヒメナガカメムシ	クロホシカメムシ	マルシラホシカメムシ	コオイムシ
ミズカマキリ	シアマメンボ	ニイニイゼミ	アブラゼミ
ヒグラシ	アオハハゴロモ	チュウゴクアミガサハゴロモ	
			カメムシ目確認種数 15種
コウチュウ目			
オオゴミムシ	マイマイカブリ	コガムシ	マメガムシ
セマルガムシ	チビゲンゴロウ	セマダラコガネ	マメコガネ
カブトムシ	シロテンハナムグリ	キマワリ	ムネアカオオクロテントウ
アカハナカミキリ	コウヤホソハナカミキリ	オオヨツスジハナカミキリ	アカアシオオアオカミキリ
ゴマダラカミキリ	クビアカツヤカミキリ	アシナガオニゾウムシ	クロオビツツハムシ
			コウチュウ目確認種数 20種
ハエ目			
アカウシアブ	コガタミズアブ	オオハナアブ	
			ハエ目確認種数 3種
チョウ目			
キアグハ	アオスジアグハ	モンシロチョウ	キタキチョウ
ヤマトシジミ	ルリシジミ	ツバメシジミ	ベニシジミ
ウラギンシジミ	ムラサキシジミ	アカタテハ	ルリタテハ
ゴマダラチョウ	オオムラサキ	ツマグロヒョウモン	サトキマダラヒカゲ
ヒメウラナミジャノメ	ヒメジャノメ	クロコノマチョウ	ヒメエグリバ
オオミノガ	イラガ		
			チョウ目確認種数 22種
ハチ目			
クロアナバチ	アメリカシガバチ	スズバチ	フタオビドロバチ
ベッコウクモバチ	ヒメスズメバチ	コアシナガバチ	セグロアシナガバチ
ヒメバチsp.	ツヤアシブトコバチ	ニホンミツバチ	タイワンタケクマバチ
クロヤマアリ	ムネアカオオアリ		
			ハチ目確認種数 14種
			昆虫類確認種数 99種

凡例	
奈良県重要種	
国外外来種	
特定外来生物	

# 秋季調査 確認種数 9月15日

凡例	
奈良県重要種	
国外外来種	
特定外来生物	

トンボ目			
ホソミイトトンボ	ベニイトトンボ	ギンヤンマ	オニヤンマ
リスアカネ	マユタテアカネ	ナツアカネ	アキアカネ
シオカラトンボ	オオシオカラトンボ	ショウジョウトンボ	ウスバキトンボ
			トンボ目確認種数
バッタ目			
ウスイロササキリ	オナガササキリ	クサキリ	ホシササキリ
エンマコオロギ	ツツレサセコオロギ	モリオカメコオロギ	アオマツムシ
ニセハネナガヒシバツタ	ハラヒシバツタ	ヤセヒシバツタ	トグヒシバツタ
ヤマトフキバツタ	コバネイナゴ	ハネナガイナゴ	ツチイナゴ
ショウリョウバツタ	アカハネオンバツタ	オンバツタ	
			バッタ目確認種数
カマキリ目			
オオカマキリ	カマキリ		
			カマキリ目確認種数
ゴキブリ目			
モリチャバネゴキブリ			
			ゴキブリ目確認種数
カメムシ目			
オオクモヘリカメムシ	クモヘリカメムシ	ハラビロヘリカメムシ	ホシハラビロヘリカメムシ
ハリカメムシ	ヒメハリカメムシ	ホオズキカメムシ	イネクロカメムシ
マルカメムシ	コオイムシ	シマアメンボ	ツクツクボウシ
アブラゼミ	ヒグラシ	ミンミンゼミ	チュウゴクアミガサハゴロモ
ツマグロオオヨコバイ			
			カメムシ目確認種数
コウチュウ目			
キボシアオゴミムシ	ケゴモクムシ	ゴモクムシsp.	セアカヒラタゴミムシ
ナミハンミョウ	マルガムシ	コアオハナムグリ	コクウガタ
ヤマトタマムシ	オジロアシナガゾウムシ	ウリハムシ	クロウリハムシ
			コウチュウ目確認種数
ハエ目			
ナミハナアブ			
			ハエ目確認種数
チョウ目			
ナガサキアゲハ	ナミアゲハ	キタキチョウ	モンシロチョウ
ウラナミシジミ	ヤマトシジミ	ウラギンシジミ	ムラサキシジミ
イシガクチョウ	サカハチチョウ	ウラギンヒョウモン	ツマグロヒョウモン
ヒメウラナミジャノメ	イチモンジセセリ	コチャバネセセリ	チャバネセセリ
ダイミョウセセリ	クロホウジャク	フクラスズメ	ホタルガ
			チョウ目確認種数
ハチ目			
ミカドトックリバチ	スズバチ	コクロアナバチ	オオスズメバチ
キイロスズメバチ	ヒメスズメバチ	コアシナガバチ	セグロアシナガバチ
ヤマトアシナガバチ	シロオビハラナガツチバチ	オオセイボウ	ハラアカドリハキリバチ
バラハキリバチ	ニホンミツバチ	クロヤマアリ	ムネアカオアリ
			ハチ目確認種数
			昆虫類確認種数
			100種

# 昆虫相から見た里山環境

- 1 周辺樹林の管理頻度が低いことが読み取れる。
- 2 沢沿いの林道 → **キバナイカリソウ・ヤマトホトトギス・スミレ類**
  - ・ ミヤコアオイ
- 3 林縁部 → **オオムラサキ・カブトムシ**
- 4 林縁部の草刈りや間伐により林床を明るくする→**ギフチョウの繁殖の可能性**
- 5 溜池周辺の除伐等により、樹林と草地を行き来するトンボ類や湿地性昆虫の生育環境の創出が可能

# 草地環境

- 1 チョウ目とコウチュウ目の出現状況から、定期的な管理が行われていることがわかる。
- 2 稲を加害するカメムシ目の出現が少ない。
- 3 草丈の高い環境好むバッタ目ササキリ類やカメムシ目を捕食する狩バチ類の出現少ない
- 4 食草性のチョウ目やコウチュウ目コガネムシ類を捕食する狩りバチが存在する。
- 5 土手の草刈り頻度が高く、ススキやチガヤなどイネ科植物の繁殖を防いで、多様な草本が生育できている。

# 林縁環境

- 1 スギ、ヒノキなどの針葉樹林を利用するハナカミキリ類
- 2 適度に管理された二次林を好むオオムラサキ
- 3 樹液に集まるコウチュウ目
- 4 林縁に生育する植物に依存するチョウ目セセリチョウ類
- 5 人工林と二次林が混在する里山的景観が残る環境と推察できる。
- 6 林縁環境の出現数（45種）が、草地環境（88種）より少ない
- 7 樹林の間隙に現れる種が見られない → 森林内の管理不足

# 水辺環境

- 1 湿性地の出現数は28種（溜池へのアプローチが困難だった）。
- 2 また、水田の落水時期と重なったことも要因。
- 3 **希少種ベニイトトンボ**多数 →  
植生の豊かさ、小～中型水性甲虫類が生息と思われる。
- 4 コシノトンボ（樹林近くの明るい溜池好む）を確認できず。
- 5 アカネ、マユタテアカネ（やや暗い溜池を好む）が確認される。
- 6 周辺樹林の管理頻度低く、樹木が高木化する傾向にある。
- 7 農薬の影響を受けやすい**希少種コオイムシ、ミズカマキリ幼虫**を確認。→ 無農薬や減農薬の成果と考えられる。

# まとめ（１）

- 落水水田から移動したコオイムシ集団が湛水水田で確認された。
- 林縁でオオムラサキのメスが確認された。



秋津穂の里が避難地として活用

## まとめ（２）

耕作地と樹林の複合的管理を行う

- 棚田の草地環境維持
- 林縁部の除伐間伐
- 溜池の除伐



間伐材の利用（稲架け・薪炭・木灰）  
里山体験ツアーの創出

## 秋津穂の里でこれからやりたいこと

やること	効果
<p>林縁部と溜池に手をいれる</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 除伐と間伐</li><li>・ トンボ池</li></ul>	<p>森林と水田を行き来する種の生息域確保 ギフチョウの復活</p>
<p>里山体験ツアーのコース</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 源流から棚田までを歩きながら生物観察</li><li>・ 棚田の農産物の食事提供</li></ul>	<p>里山を知る教育 癒しとリトリート</p>
<p>川上村の源流ツアーとの連携</p>	<p>森林地域と里山地域の生物相の違いを知る</p>
<p>継続的な生物調査</p>	<p>森林管理による生物の変遷を調査する</p>

# さいごに 調査を終えて思うこと

水資源がこの国を支えている  
「源流」というキーワードで繋がりたい

全国各地、大小無数の水源を守ることが  
中山間地コミュニティを存続し、  
境界における生物との共存を図り、  
ひいては下流域の生活環境を守っている。

水源地サミットを開催して（例えば川上村が中心に）  
全国的な運動を展開、国を動かさないだろうか。